

「学びの变革」指導展開例

＜基本情報＞

- ◇教育課程 作業学習(農業)
- ◇学年 中学部 第1・2・3学年 農業第3班(5名)
- ◇单元名 「秋野菜・花の栽培」
- ◇单元の目標
 - 働くことに喜びをもち、すすんで作業に取り組むことができる。
 - 作業学習を理解し、主体的に最後まで取り組むことができる。
 - 作業に使う道具を正しく安全に正しく扱い、自ら適切な管理や手入れを行うことができる。
 - 役割を理解し、仲間に働きかけながら協力して作業に取り組むことができる。
- ◇本時の目標
 - ・ 白菜の種まきの仕方を理解して取り組むことができる。
 - ・ 自分の役割を理解し、協力して全部で15ポット植えることができる。
- ◇生徒の実態 単一障害学級生徒縦割りグループ。第1学年2名、第2学年1名、第3学年2名。作業における基本的な態度(挨拶・報告・身だしなみ等)にはまだ課題がある集団。課題解決の場を設定すると、生徒自らアイデアを出し工夫する姿が見られる。ペア活動では、お互いに声を掛け合い協力しようとする意識をもちつつある。

＜学習過程(抜粋)＞ ※生徒Aと生徒Bはペア活動

学習活動	指導上の留意点		
	A	E	全体
1 挨拶			
2 本時の作業内容・目標を知る			
3 種蒔きの方法を理解する			
4 役割分担・準備	<p>(作業概要) 生徒Aは、種まき用ポットを生徒Bから「お願いします」と伝えられて貰い受け、ポットに支援シート(穴をあける場所を指定)を置いて指でポットに種まき用の穴をあける作業担当。そのポットは生徒Eへ渡す。</p>	<p>(作業概要) 生徒Eは、生徒Aから貰い受けたポット(支援シート付、種を蒔く場所の支援にもなる)にピンセットを使って白菜の種を蒔く作業担当。蒔いた後は、そのポットをT1へ「できました」と報告して提出する。</p>	
5 作業開始	<p>生徒Eに、「どうぞ」と言ってポットを渡すことができる。</p> <p>○流れ作業にしやすい位置に機の配置をしておく。一度、作業の流れを具体的に見せておく。(T1)</p>	<p>T1に、「できました」と言ってポットを渡すことができる。</p> <p>○受け渡ししがしやすい位置にDをなたせておく。受け渡す時に、「でき…」とことばを促すことを伝え、教師の促しを減らしていく。(T1)</p>	<p>・教師は、工程ごと最初の見本のみ説明を行い、後は生徒同士で連携していけるよう徐々に離れて見守る。</p>
	<p>②生徒Aは当初は生徒Bから貰い受けるときに「はい」と返事をするよう指導されていました。途中から生徒Eの①のような行動は想定していなかったのですが、急遽支援シートを貰い受ける状況になっても、同様に自ら「はい」と返事を返すコミュニケーションをするようになりました。</p>	<p>①生徒Eはポットと共に支援シートをT1に渡していました。その際、T1が支援シートのみを生徒Aにその都度返却していた様子を見て、途中からポットはT1に、支援シートは生徒Aに返却するようになりました。</p>	

二人の生徒はコミュニケーションに課題があり、指定された行動をルーチンで行う作業行動が中心であったが、この場面では他者を意識し、どうしたらよいか判断し自ら作業行動に表した。授業者は、生徒に考えさせる場面をよく設定している。当初は考えること自体の難しさがあったが、今では気付き、考え、行動する本場面のような状況が見られるようになった。